

『自分との向き合い方』



幼少期

幼少期は自由奔放で、自分のやりたいことに夢中になっていた時期でした。泥遊びに熱中し、親は洗濯が大変そうですが、それくらい周りのことが見えなくなるほど自分の世界に没頭していたようです。他の子と遊ぶ時も、自分の遊びたいことに他の子を巻き込んでいる感覚だったと思います。一年に一度ほど父親から厳しく叱られることがありましたが、原因が分からないことも多かったです。例えば、カードの暗証番号を声に出して読み上げたり、日本橋で食べたいものを聞かれ「マック」と答えたりして父親を怒らせてしまい、殴られてしまったことがありました。その一方で、母親は常にそばについて支えてくれていました。

小学校時代

小学校三年生の時には、いじめを経験しました。原因ははっきりとは分かりませんが、自分が目立つ行動をしていたことが一因かもしれません。その後、小学校四年生の時に山村留学を経験しました。親とは月に一度程度会うだけの環境でしたが、慣れるまでの数ヶ月間は寂しさと不安で涙を流す日々が続きました。それでも、自分の得意分野であるそり遊びで活躍し、自信を取り戻すことができました。その後は、周りの子供たちから慕われるようになり、楽しい日々を過ごすことができました。この経験は、自分の成長における大切な節目となりました。

中学校時代

中学校に入学した直後は楽しい時期もありましたが、すぐに心身が不安定になり、新しい環境に馴染めず悩む日々が始まりました。朝起きられないことが多く、学校へ行く日も週に二、三日程度で、授業についていけず孤独を感じることも少なくありませんでした。「死にたい」と思い続ける日々を過ごし、周囲にその思いを吐露する事も少なくありませんでしたが、その裏には「助けてほしい」という思いがあったのかもしれません。担任の先生からの「もう少しだけ頑張ろう」という励ましの言葉は当時は受け入れられませんでした。今ではその言葉の意図を理解し、自分の限界を決めつけることなく挑戦する勇気を与えてくれたと感じています。

高校時代

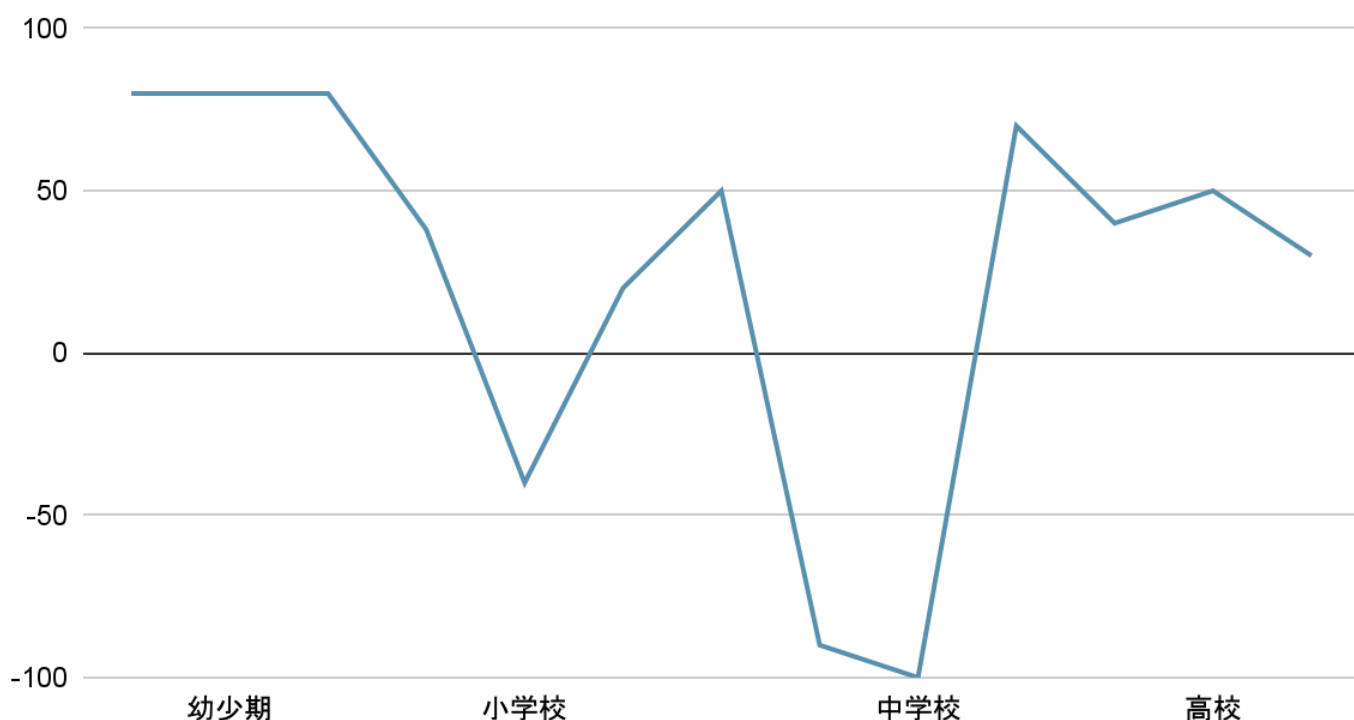
高校時代も悩みが続きましたが、少しずつ気楽に考えられるようになり、自分の心と向き合うことができるようになりました。欠席を減らす努力をし、遅刻は多かったものの比較的安定して学校に通うことができました。また、初めて友人のグループができ、学校での過ごし方が変わりました。二年生の時には初めて親友ができ、喧嘩を経験したこともありました。相手と向き合い、自分の非を認める辛さを感じることで、人間関係の大切さを学ぶことができました。また、ティーンズに通い始めたことで、気持ちを言葉にする機会を得て少しずつ前向きになり、自分の内面を見つめる時間が必要であったと実感しています。

母へ

18年もの長い間、僕の面倒を見てくださってありがとうございます。貴方がいなければきっとここまで生きてこれなかったと思います。中学時代に、酷い言葉をたくさん浴びさせてしまったこと、本当に申し訳ないです。それでもひたすらに私と向き合ってくれて感謝してもしきれないです。私が一番尊敬していて、胸を張って誇れるようなそんな人が私の親であることが人生で一番の幸運だと思います。

18年間のモチベーショングラフ

得点



A.Kさん 小学校(公立)⇒中高一貫校(私立)

利用時期: 高2～高3 参加プログラム: 週1日の個別セッション

ティーンズで行っていたこと: 課題・タスク管理、スタッフに悩みを話し感情の整理やアドバイスをもらう

長所: 好きなことへ没頭できる、人を思いやる気持ち

過去の自分に一言: 今動け！
